

2020年 4月 30 日

助成事業実施報告書

団体名 (特活) 青少年の自立を支える奈良の会

代表者・理事長 氏名 浜 田 進士

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

伴走型退居者支援：潜在化している退居者の声をひろいあげ、奈良市の社会的養護のシステム見直しを提案する

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

虐待・貧困などのため家族と暮らす権利をはく奪されたハイティーンの子どもの居場所を確保するため2010年8月、任意団体として発足しました。2012年11月、NPO法人化。2013年4月、奈良県で最初の自立援助ホーム「あらんの家」(男子6名)を開設しました。児童相談所・家庭裁判所・保護観察所などから入居依頼を受けて、この7年間で34名の子どもたちを受け入れてきました。現在会員は65名です。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

自立援助ホームを巣立った子どもたちはアパートや住み込み就労、シェアハウスなど様々なスタイルで地域に暮らしています。2021年、奈良市が児童相談所を開設し、「新しい社会的養育ビジョン」(2017年)にそった事業を準備中です。アフターケア・退居者支援の比重は年々高まっています。私たちは、おかえり活動・面会・文通・電話相談・他機関連携等の他に、居住先や避難先に赴くアウトリーチ型支援や生活保護申請など多岐にわたっています。しかし、アフターケア事業の指定を県から受けられず、これまで自己資金でおこなってきました。今回助成をうけることで伴走型支援の質を高め、退居者の潜在的な声をひろいあげることで奈良の社会的養護の課題をまとめ、里親・児童養護施設等との有機的な連携を図ります。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

「あらんの家」を退居した子どもたちが、退居後も、安心して安全な生活が送れように、子どもたちが帰ってくるのを待つのではなく、「自分たちが動く、自分たちから会いに行く」という『伴走型支援』をおこないます。子どもたちの退居者のニーズにあわせ適切な支援資源の提供をおこない、退居者の問題解決を図ります。ひとり一人の退居者の声をひろいあげ、2021年開設予定の奈良市児童相談所事業へのアドボケイト＝政策提言を行います。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

このたび助成を受けたことで、積極的に支援を展開し、大きな成果をえることができました。おかえり（退居した子どもがあらんの家に戻る）421件・宿泊13回、退居者むけイベント4回、電話582回、手紙8通、訪問（アウトリーチ）89回、外食6回、メールやラインに至っては回数を数えることはできません。また、聞き取りをおこない、入居時の課題、退居後の課題など様々なニーズを把握することができました。奈良県や奈良市に関係機関に、退居後こそが大切な支援であることの理解がすこしずつ深まっていると実感しています。今回、さらに新型コロナによる影響で、失業したり、家賃が払えなくなったり、リモート学習のツールがなかったりなどのニーズ把握も迅速におこなうことができました。日常の関係作りがSOSをうけとめる基盤になったと痛感しています。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

3月14日に予定していた奈良教育大学の生田教授を招いての公開学習会を、新型コロナの影響で実施することができませんでした。また、その際、当事者である子どもたちが自ら発言する機会も設けることができず、ほんとうに残念です。今後、奈良県や奈良市にアフターケアの必要性をうったえ、安定した事業費をつけてもらえるよう、積極的に要請していくつもりです。ご支援いただき本当にありがとうございました。報告書の冊子は別途送付します。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり ・ 特になし

自立援助ホーム「あらんの家」

退居者支援報告書

7年間にわたる伴走型退居者支援

特定非営利活動法人 青少年の自立を支える奈良の会

2020年(令和2年)5月

目 次

あいさつ	2
1、自立援助ホーム「あらんの家」とは？	3
2、「あらんの家」の成り立ち	3
3、「Aくんの物語」具体的なケースより	4
4、自立援助ホームの概要	6
5、「あらんの家」の7年間の取り組み	7
6、退居者支援の概要	11
7、具体的支援内容	15
8、長期的な支援の取り組み	18
9、子どもの聴き取りから学ぶこと	19
10、新型コロナ感染拡大がもたらす子どもたちへの影響	21
11、退居者支援の問題と課題	23
12、地域社会や関係機関との連携	23
13、女子ホーム「ミモザの家」開設について	25
14、関係機関への提言～まとめにかえて～	26

本事業は、真如苑の助成を受けて実施しました。